

ミクロ経済学A/現代経済学I

第3回 「部分均衡分析①」

法政大学 経済学部 平井俊行

完全競争市場

- すべての経済主体（消費者・生産者）は
プライスティカー（価格受容者）である。
 - 価格への影響力を持たない。
- 扱われる財はコモディティ化している。
 - 同じ財として扱われているものは完全に同じ。
- すべての消費者や生産者は財についての正確な情報を持っている。
- 外部性が存在しない。
 - ある経済主体の行動が市場を経ずにはかの主体に影響を及ぼすことがない。

部分均衡分析

- 1つの財の市場にのみ注目して分析。
 - この財の価格と需要量・供給量の関係に着目。
 - 財はすべて可分とする。
 - 取引する単位をいくらでも細かくできるということ。
 - 他の財の市場や外部環境については一旦固定。
 - ほかの財の価格。(代替材、補完財)
 - 所得の変化。(上級財、下級財)
 - 生産技術の変化。
 - 好みの変化。
- Etc.

市場均衡

- 財の需^{めぐ}求^も量と供給量が一致する価格で取引成立。
 - このときの価格を均衡価格
 - このときの取引量を均衡取引量
- 均衡価格と均衡取引量のペアを市場均衡と呼ぶ。

需要

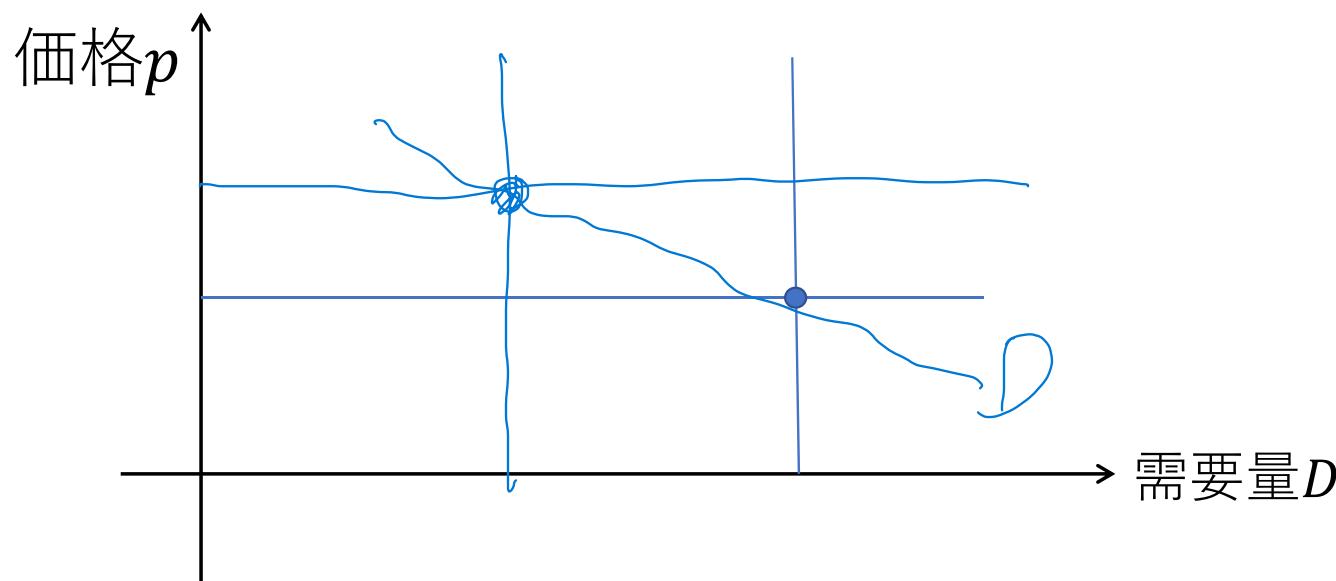
- (ある価格のもとでの)需要量
 - 与えられた **価格** のもとで、消費者が購入したいと考える財の量。
- 需要関数
 - 価格とその価格のもとでの **需要量** を関連付ける関数。
- 需要曲線
 - (逆)需要関数のグラフ。
 - 【鉄則】 縦軸に価格、横軸に需要量。

需要曲線

$D = d(p)$

(価格 p のもとでの)需要量 需要関数 価格

- 需要法則：価格上昇→需要量減少。

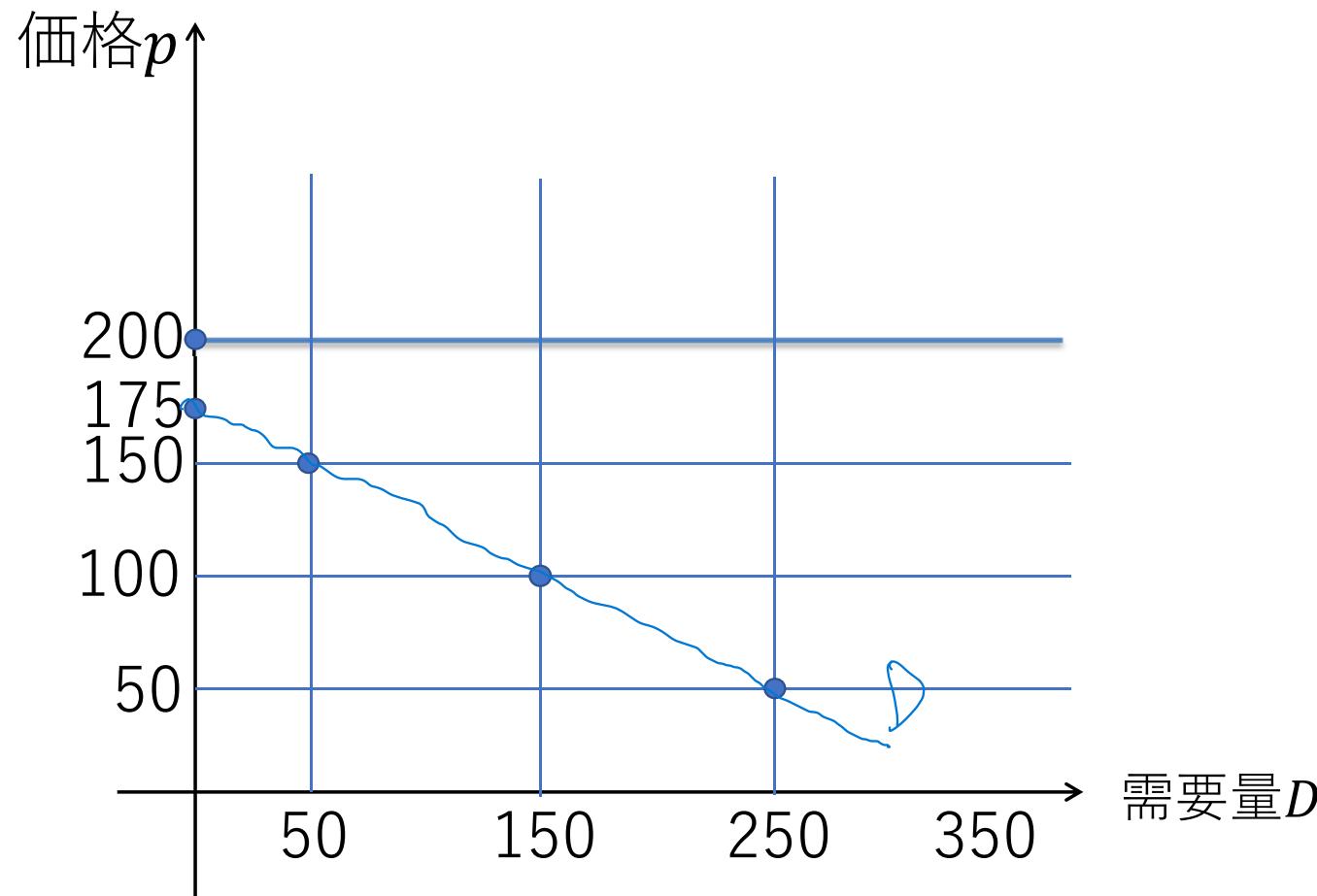


需要関数

- 例： $D = 350 - 2p$

価格 p	需要量 $d(p)$
50	250
100	150
150	50
175	0
200	<u>0</u>

需要曲線



供給

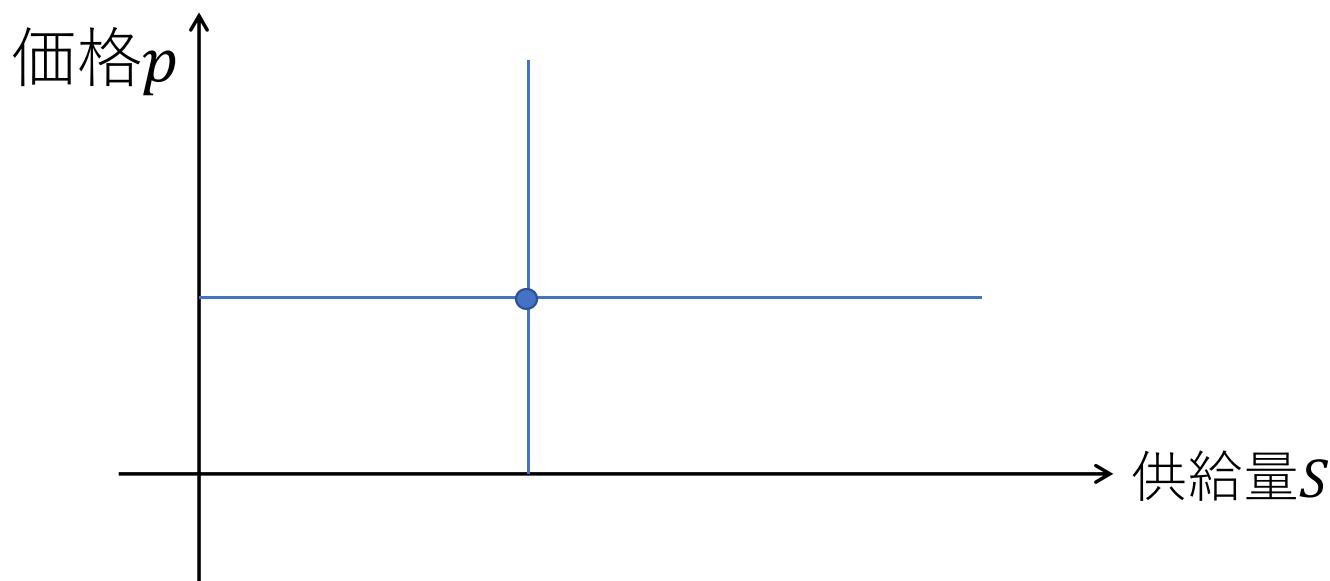
- (ある価格のもとでの)供給量
 - 与えられた **価格** のもとで、生産者が所与の生産技術で可能な範囲で生産・販売したい考える財の量。
- 供給関数
 - 価格とその価格のもとでの **供給量** を関連付ける関数。
- 供給曲線
 - (逆)供給関数のグラフ。
 - 【鉄則】 縦軸に価格、横軸に供給量。

供給曲線

$S = s(p)$

(価格 p のもとでの)供給量 供給関数 価格

- 供給法則：価格上昇→供給量増加(非減少)。



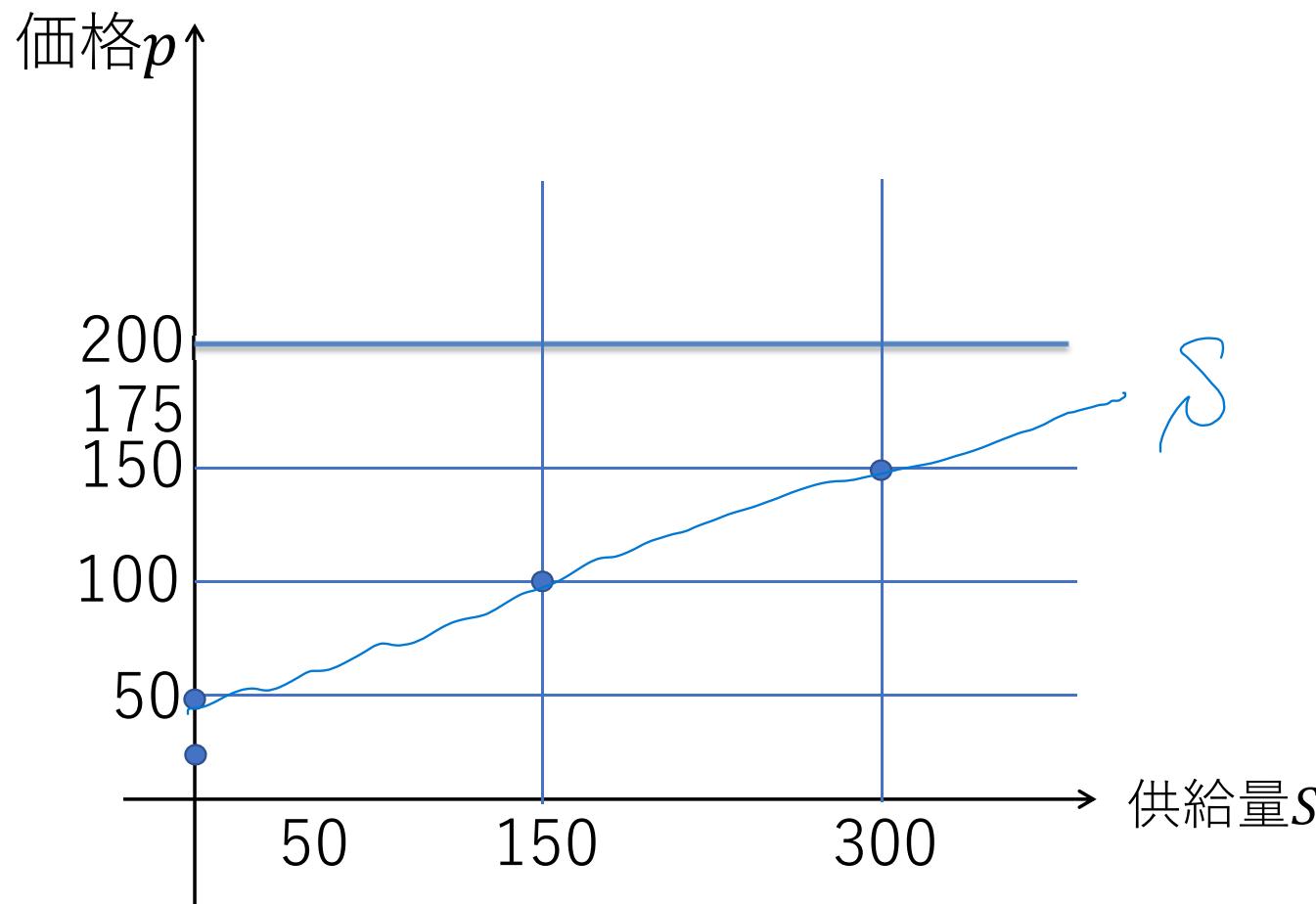
供給関数

- $S = s(p)$

例 : $S = 3p - 150$

価格 p	供給量 $s(p)$
25	0
50	0
100	150
150	300
200	450

供給曲線



個人需要・供給と市場需要・供給

- 需要や供給は本来個々の消費者や生産者によるもの。
- 部分均衡分析で興味があるのは市場での取引の結果。
- 市場にいる消費者全員の個人需要を合算したものが市場需要。
- 市場にいる生産者全員の個人供給を合算したものが市場供給。

市場需要関数・市場供給関数

例: 消費者1の需要関数 $D_1 = 300 - 2p$

消費者2の需要関数 $D_2 = 100 - p$

消費者はこの2人だけだったとする。

市場需要関数 $D = 400 - 3p$

- 部分均衡分析のパートでは市場需要関数および市場供給関数のみ考える。

市場均衡

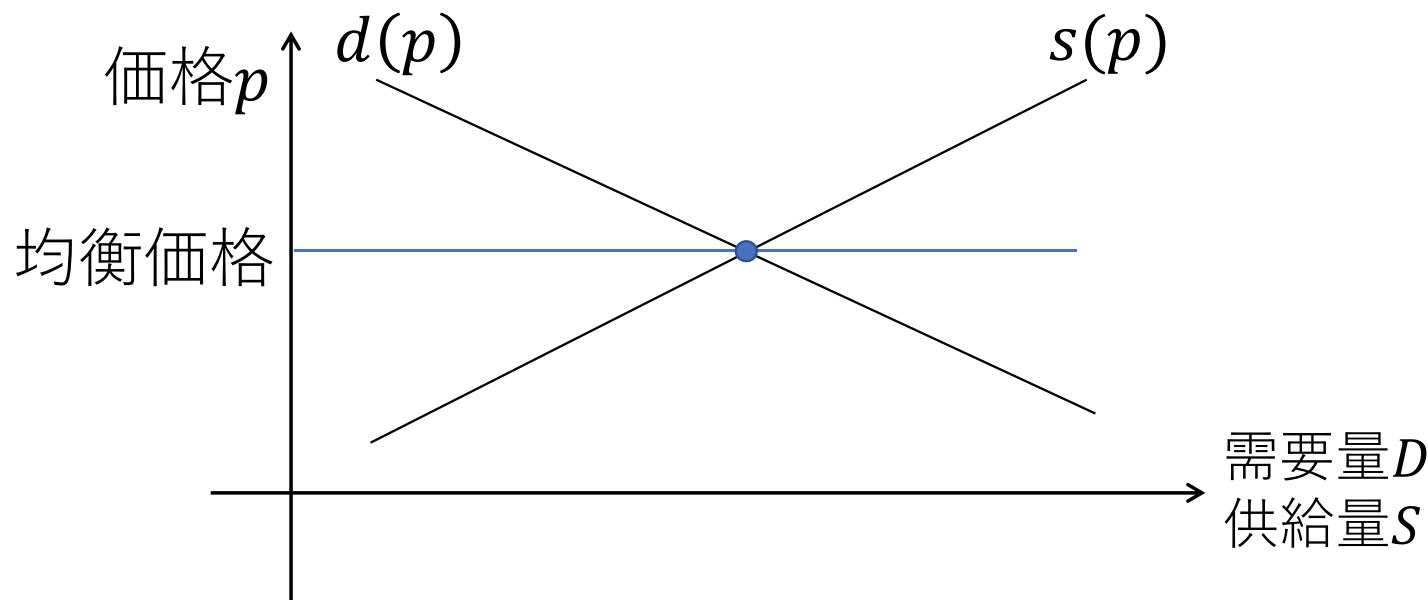
- 均衡価格：需要量と供給量が一致する価格。
 - $d(p) = s(p)$ となる p .
- 均衡取引量： $d(p^*)$ のもとでの需要量および供給量
 - p^* を均衡価格としたときの $d(p^*)$ および $s(p^*)$
- 市場均衡：均衡価格と均衡取引量の組。

超過需要・超過供給

- 需要法則・供給法則のもとでは、

- 価格>均衡価格→需要量＜供給量
- 価格<均衡価格→需要量＞供給量

超過供給
超過需要



ワルラスのオークショニア

- ・消費者・生産者は全員 **プライステイカー**。
- ・市場にはオークショニアと呼ばれる第三者がいると仮定。
 - ・ある価格で超過需要発生→価格を **上げる**
 - ・ある価格で超過供給発生→価格を **下げる**
- ・このプロセスを経て **均衡**へ近づく。
- ・オークショニアがない市場(ほぼこれ)でどのように均衡価格が達成されるかについても色々な説明がある。

練習問題

$D = 350 - 2p$, $S = 3p - 150$ であるような市場の市場均衡。

均衡では $D=S$ なので

$$P=100$$

そのときの需要量・供給量は

$$D = 350 - 2 \cdot 100 = 150$$

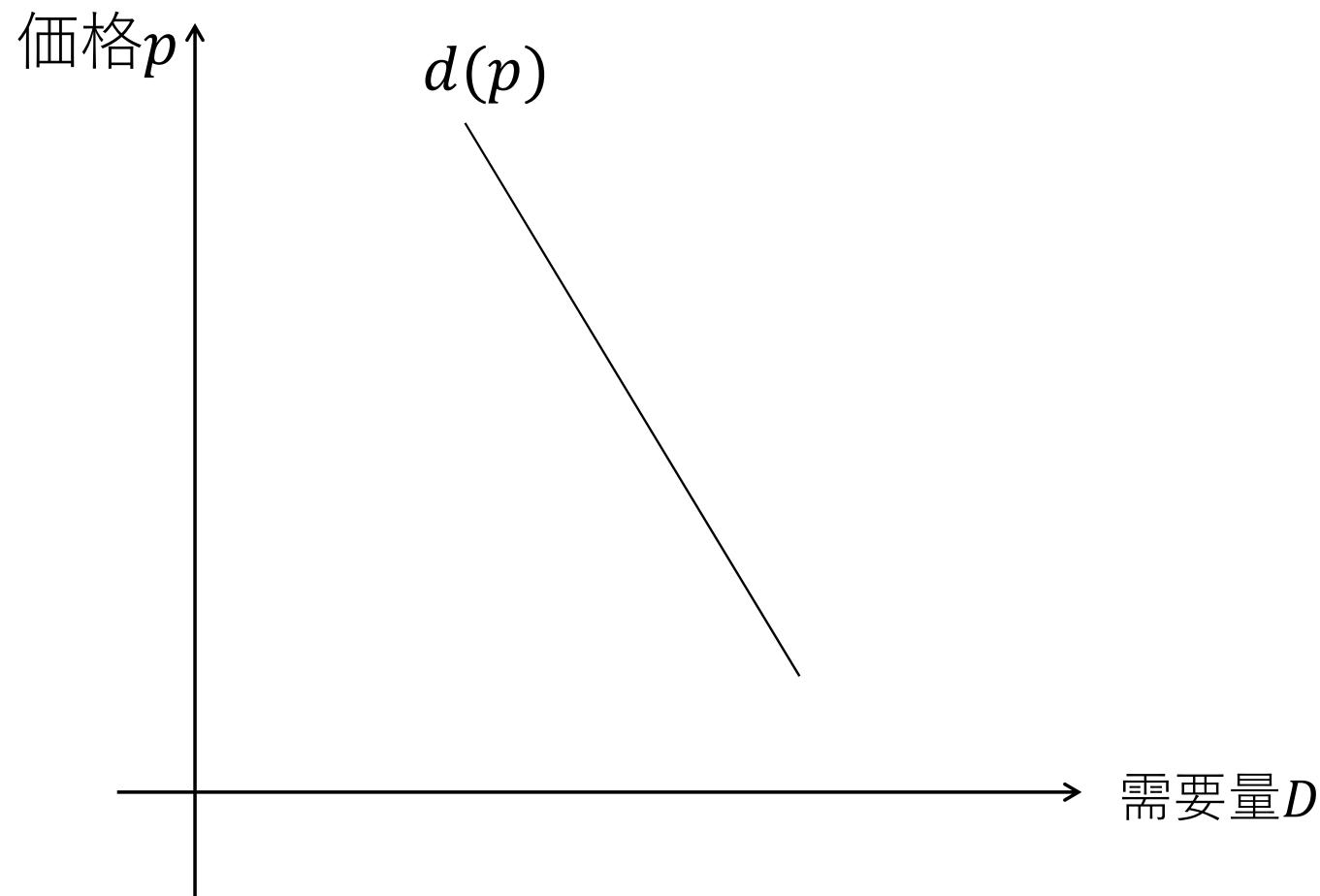
$$S = 3 \cdot 100 - 150 = 150$$

したがって均衡価格 100 、均衡取引量 150

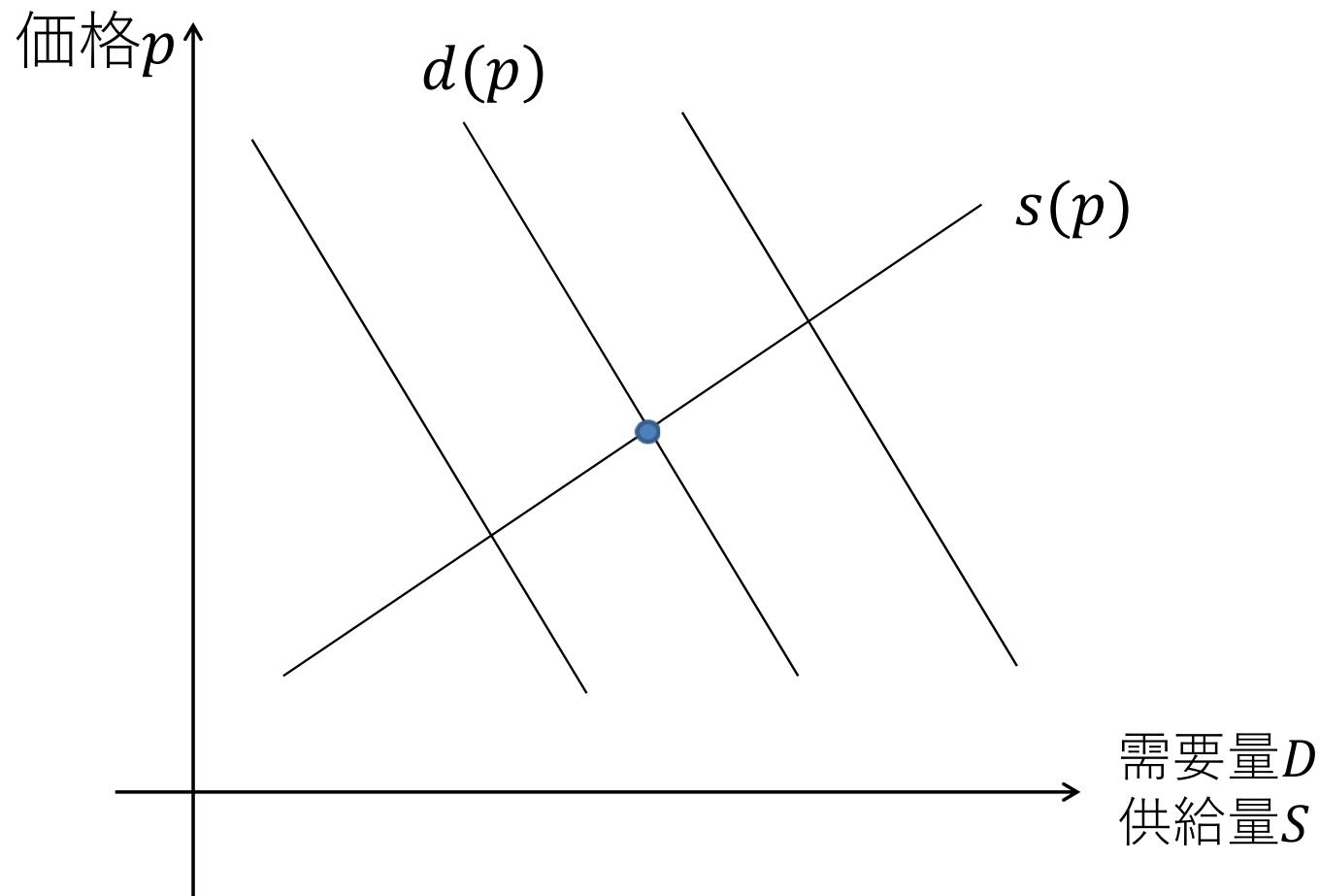
比較静学の考え方

- ・部分均衡分析では1つの財の市場に注目し、他の財の市場や外部環境は固定していた。
- ・固定していた部分に変動があったとき、注目している財の市場にどのような影響があるか。
- ・例：米の市場
 - ・水害・冷害などで米が不作だった。
 - ・小麦(製品)の関税が撤廃され、米(製品)の代わりに小麦(製品)がより多く買われるになった。

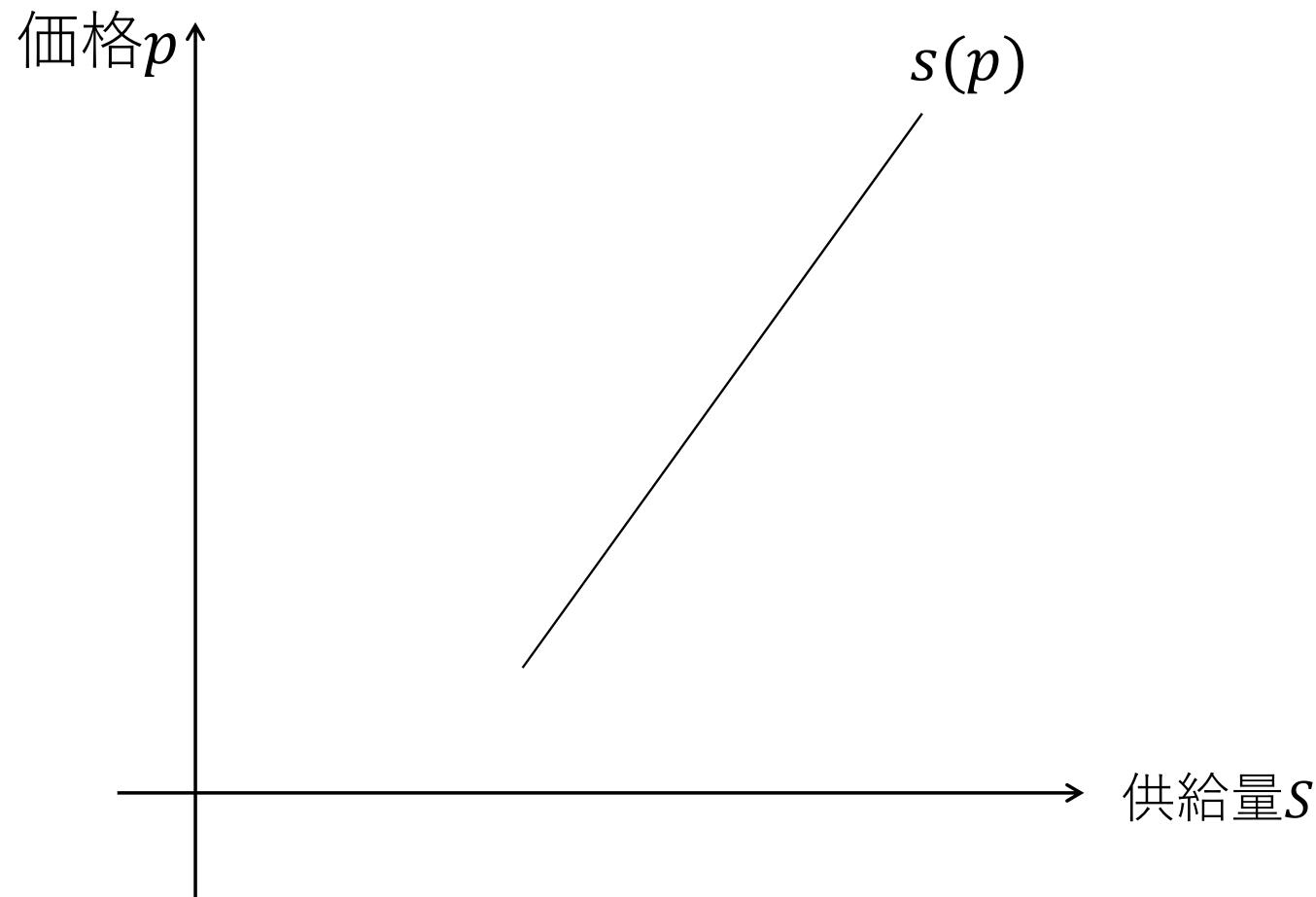
需要曲線のシフト



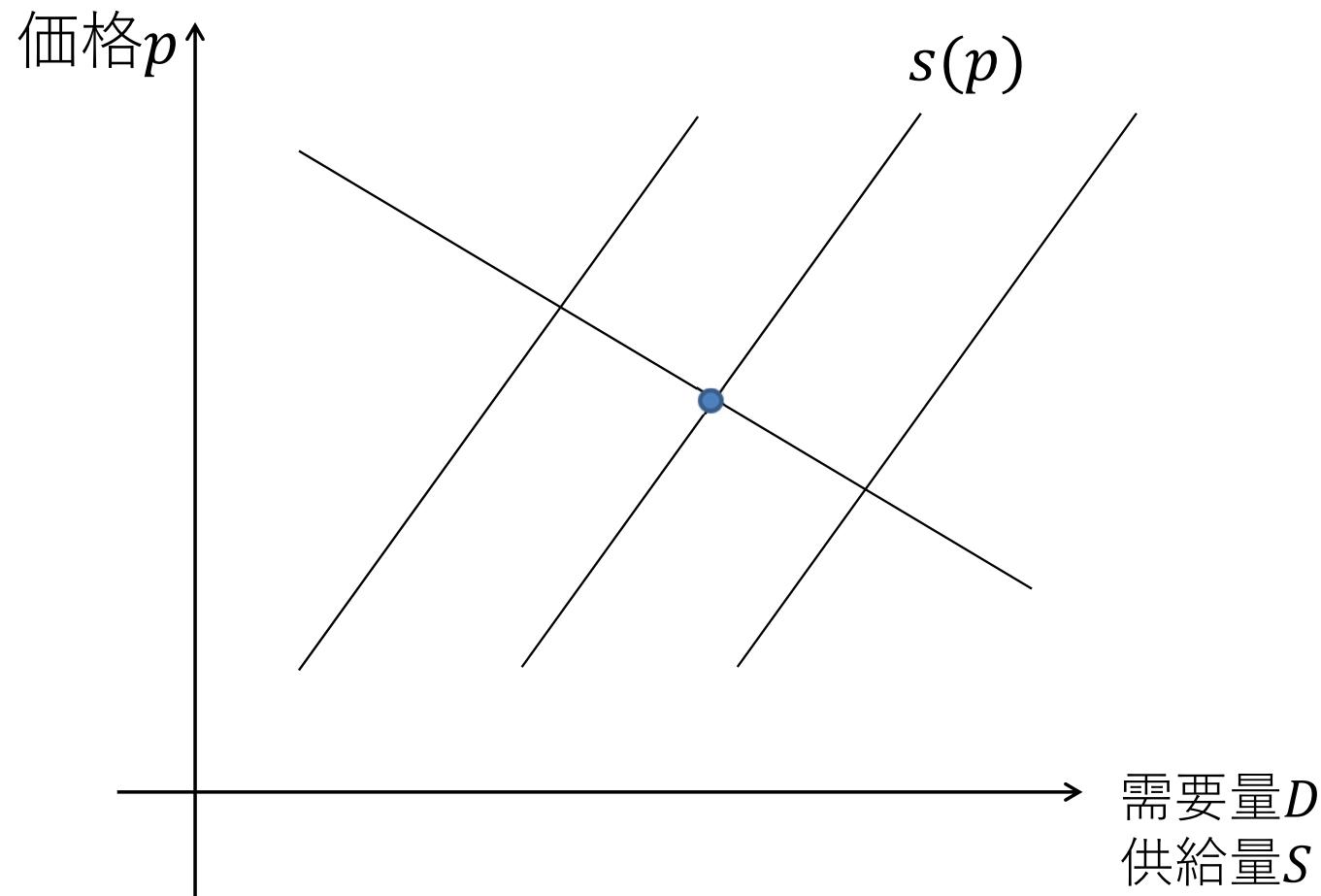
需要曲線のシフトと市場均衡の変化



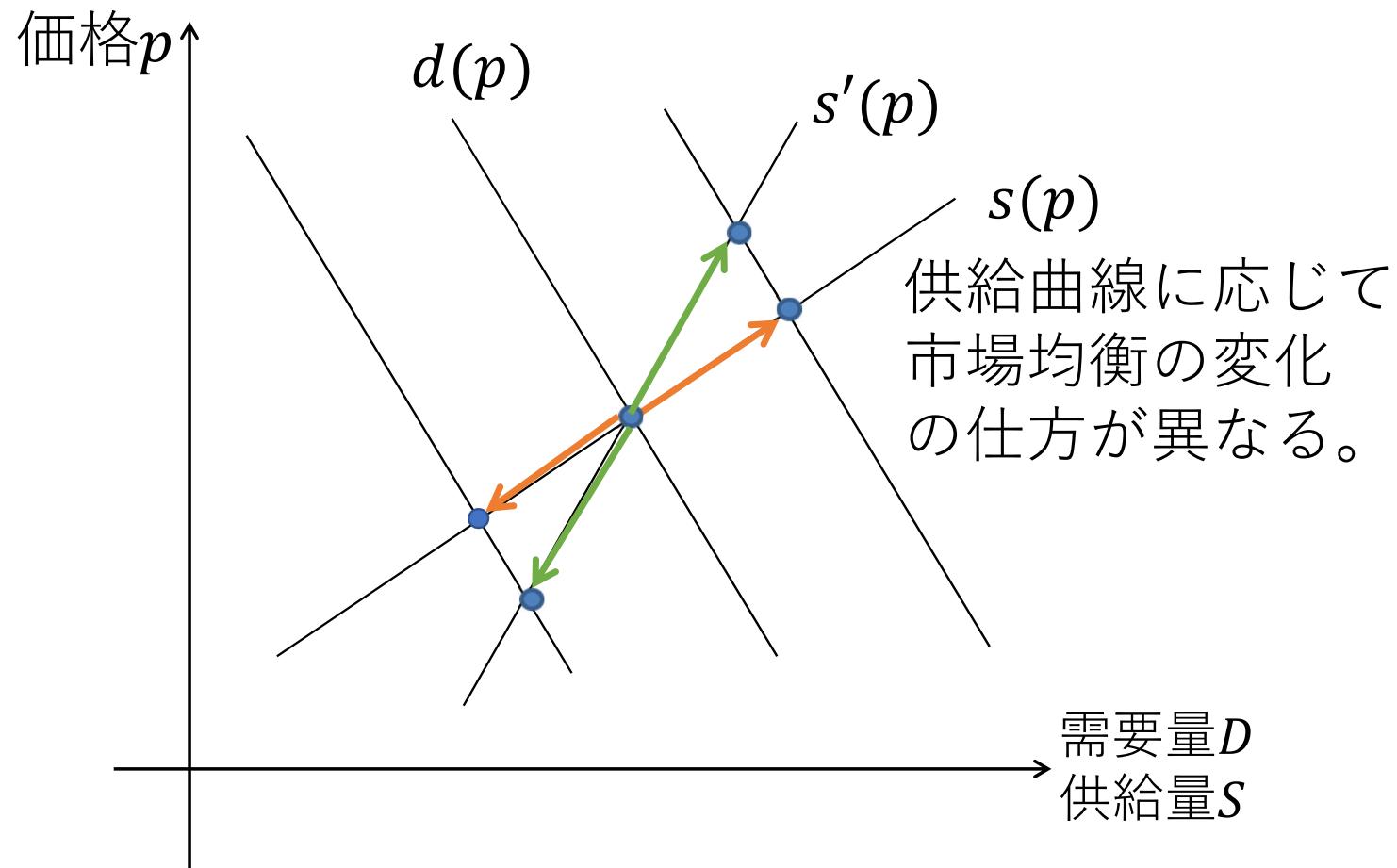
供給曲線のシフト



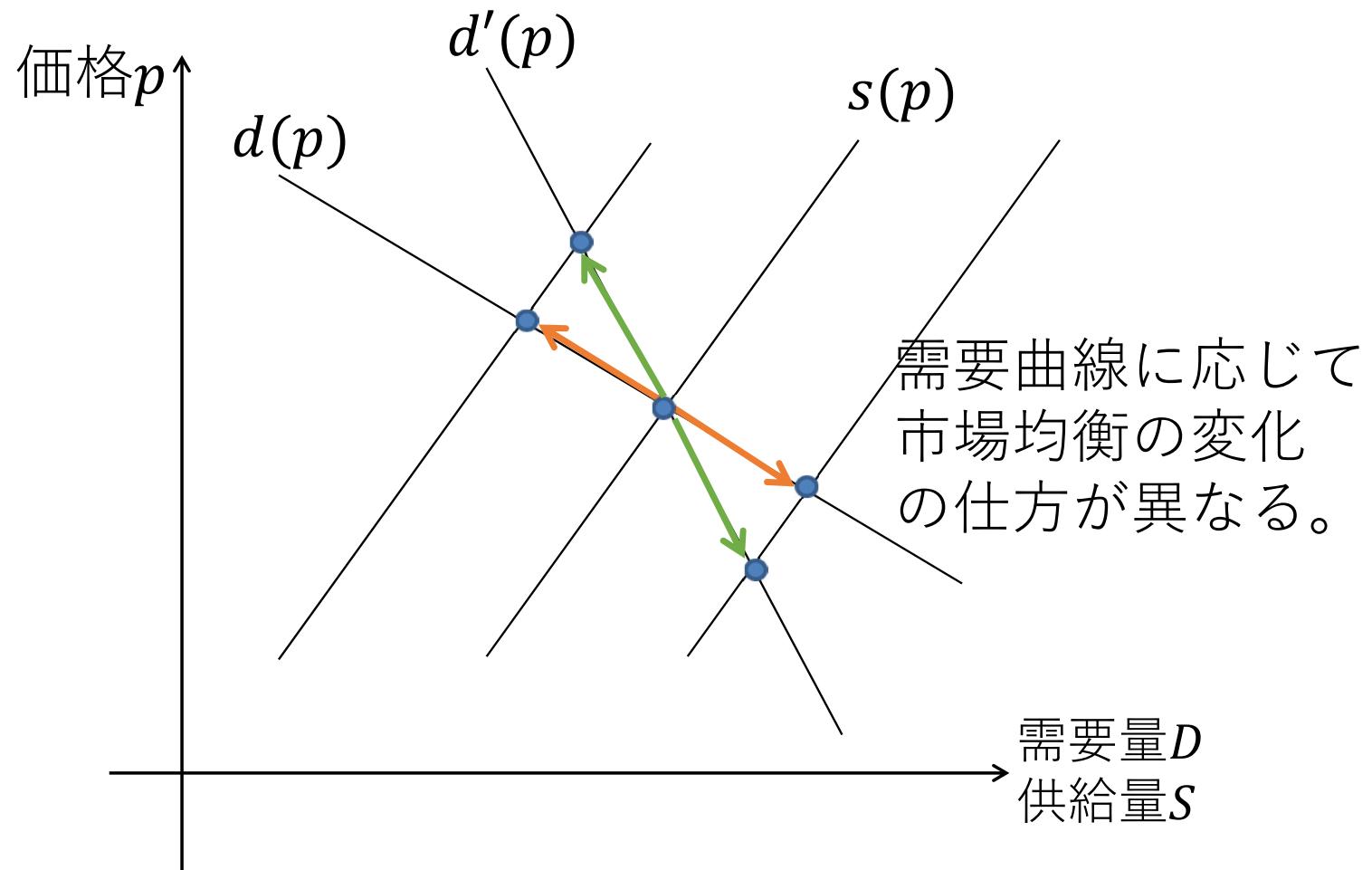
供給曲線のシフトと市場均衡の変化



需要曲線のシフトと市場均衡の変化



供給曲線のシフトと市場均衡の変化



シフトと市場均衡の変化

- 需要曲線がシフトした場合、供給量が価格の変動に対してより敏感に反応するとき、
 - 均衡価格の変化はより小さくなり、
 - 均衡取引量の変化はより大きくなる。
- 供給曲線がシフトした場合、需要量が価格の変動に対してより敏感に反応するとき、
 - 均衡価格の変化はより小さくなり、
 - 均衡取引量の変化はより大きくなる。